

埼玉県納税貯蓄組合総連合会会長賞

越谷市立富士中学校 二年 安発 沙友里

使い方を見直す

二〇一九年、政府がG I G Aスクール構想を発表した。生徒・児童に一人一台ずつ学習用デジタル端末を配布し、高速通信を利用することによって学びを深めるのが目的である。整備にかかる関連予算は、国全体で約四千六百億円となっている。では果たして、本当に私たちの学びは深まっているのだろうか。この目的が達成されなければ、整備にかかった費用、つまり税金は無駄だったと言える。

初めて学校でi P a dが配布された時、私は、授業が今まで以上に分かりやすくなるのだと期待した。しかし、実際に使い始めると、様々な問題点に気づいた。まず一つ目は、私の学校では多くの生徒が同時に端末を使うと画面が動かなくなってしまうことだ。これにより、授業内での無駄な時間が増えた。W i F iに接続するまで待ち続けることになったのである。せっかく興味を持って課題に取り組んでいてもこれでは理解が深められないどころか、集中力が切れてしまう。もう一つの問題は、閲覧制限が厳しすぎることだ。授業内容を思うように調べられないことがよくある。配布されて数ヶ月経つが、学びが深まっているという実感は今のところない。多額の税金を使ってまで一人一台の端末配布は必要だったのかと疑問にすら思った。

確かに、これからのデジタル社会を生き抜く上で、デジタル機器の扱い方をよく知り、慣れておく必要はあると思う。なぜなら、学習や仕事の効率を上げるため、今後デジタル技術は更に進化し、ますます活用する機会が増えると予想されるからだ。そして、こうした機器の使い方を学ぶ機会を公平に確保するため、税金による整備にも意義がある。ただ、今のままのデジタル教育では身に付かないだろう。それでは税金の無駄遣いである。予算に計上し税金を投入する以上、国民が効果を実感できなければならないと思う。そのためには、もっと上手にデジタル機器を活用していくことが大切だ。i P a dが導入され、良い点も見つけた。例えば、私は今年度、オーストラリアの生徒とのオンライン交流会に参加した。交流会では、オーストラリアの生徒とスムーズにつながり、会話をすることができた。海を越えて、目の前で話しているかのようにつながることができ、私はとても驚いた。コロナ禍でなかなか外出できない今だからこそ、このような機会をもっと増やしていくべきだと思った。

以上のことから、私は、税金の使い方が見直されるべきだと思う。ただ新しいことを導入するだけでなく、それをどのように運用していくのかまで考える必要がある。もし、問題が起きたら即座に対応し、運用方法を見直さなければならない。国民が効果を実感できるような政策を打ち出すべきだ。曖昧な政策に税金が使われ続けると思うと怒りを感じ

る。私も国民の一人として税金の使われ方についてより詳しく知り、声を上げていきたい。